

2017年6月  
No.17-098a(全)※5

## 新規受託項目のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。  
平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、弊社では皆様のご要望にお応えするため、検査の新規拡大に努めておりますが、この度、下記項目の検査受託を開始することとなりました。

取り急ぎご案内いたしますので、宜しくご利用の程お願い申し上げます。

敬具

### 記

#### ■新規受託項目

- [-] 百日咳菌 DNA

※検査要項の詳細は裏面をご参照下さい。

#### ■受託開始日

- 2017年6月23日(金)

以上

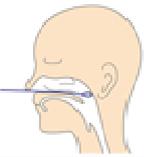
## 百日咳菌 DNA

百日咳は百日咳菌の気道感染によって、引き起こされる急性(気道)呼吸器感染症です。ワクチンにより予防可能な疾患ですが、年長児や既ワクチン接種者では非典型的な症状が多く、診断が困難となるケースが少なくありません。本検査は、LAMP 法を用いており、迅速かつ特異的に百日咳菌の核酸検出が可能であるため、他の呼吸器系疾患との鑑別や百日咳の早期診断等に有用な検査として、期待されています。

### ■検査要項

項目コード	-
検査項目名	百日咳菌 DNA
検体量/保存方法	後鼻腔ぬぐい液/凍結保存 <sup>※1</sup>
検査方法	LAMP 法
基準値	陰性
所要日数	3~6 日
検査実施料	360 点 <sup>※2</sup> ([D023]微生物核酸同定・定量検査「7」百日咳菌核酸検出)
判断料	150 点 (微生物学的検査判断料)
備考	<p>※1: 後鼻腔ぬぐい液は、必ずフロックスワブで採取し、滅菌ポリスピッツにスワブを入れて凍結保存してください。他項目との重複依頼は避けてください。本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意ください。</p> <p>※2: 本検査は、関連学会が定めるガイドラインの百日咳診断基準における臨床診断例の定義を満たす患者に対して、LAMP 法により測定した場合に算定できます。</p>
検査委託先	エスアールエル (→5)

### ■専用容器取扱い方法

採取容器	検査項目	保存
	百日咳菌 DNA	凍結
	採取方法	
	1. 綿球部分に触れないように、スワブの軸部分をつまんで取り出します。	
		2. 被験者の頭を動かさないようによく押さえ、その後、スワブを後鼻腔に静かに挿入して粘液を採取します。
		3. 速やかにスワブを滅菌ポリスピッツの中に入れ、スワブの柄にあるスリットを容器の縁にあてて折ります。
		4. スワブを入れたまま容器のキャップをしっかり閉め、凍結保存にて提出してください。
 <p>フロックスワブ      滅菌ポリスピッツ</p> <p>貯蔵方法 室温 有効期間 1年</p>		

### ■参考文献

Kamachi K, et al: J Clin Microbiol 44(5):1899~1902,2006. (検査方法参考文献)  
 岡藤 輝夫, 他: 診療と新薬 52(12): 1133~1140, 2015.